

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

JC997 U.S. PTO
09/897136
07/03/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 5月16日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-147014

出 願 人

Applicant(s):

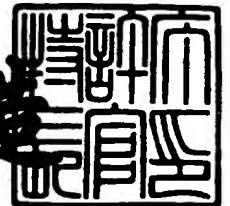
株式会社リコー

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 5月31日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3050643

【書類名】 特許願

【整理番号】 0103365

【提出日】 平成13年 5月16日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G03G 21/00 370

【発明の名称】 画像形成装置、画像形成方法およびプログラム

【請求項の数】 12

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式会社リコー内

【氏名】 森田 哲也

【特許出願人】

【識別番号】 000006747

【氏名又は名称】 株式会社リコー

【代理人】

【識別番号】 100089118

【弁理士】

【氏名又は名称】 酒井 宏明

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-204235

【出願日】 平成12年 7月 5日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 036711

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9808514

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像形成装置、画像形成方法およびプログラム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 表示部、印刷部および撮像部などの画像形成処理で使用されるハードウェア資源を有し、プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの画像形成処理に係るユーザーサービスを提供する画像形成装置であって、

前記プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの各ユーザーサービスにそれぞれ固有の処理をおこなうアプリケーションを複数搭載可能とし、

前記アプリケーションと前記ハードウェア資源との間に介在し、前記ユーザーサービスを提供する際に、前記アプリケーションの少なくとも 2 つが共通的に必要とする前記ハードウェア資源の管理、実行制御並びに画像形成処理をおこなうプラットフォームを備えた

ことを特徴とする画像形成装置。

【請求項 2】 前記プラットフォームは、あらかじめ定義された関数により前記アプリケーションからの処理要求を受信可能とするアプリケーションプログラムインターフェースを有することを特徴とする請求項 1 に記載の画像形成装置。

【請求項 3】 前記プラットフォームは、

前記アプリケーションからの処理要求を解釈して、前記ハードウェア資源の獲得要求を発生させるコントロールサービスと、

一または複数のハードウェア資源の管理をおこない、前記コントロールサービスからの前記獲得要求を調停するシステムリソースマネージャーと

を有することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の画像形成装置。

【請求項 4】 前記コントロールサービスは、複数のサービスモジュールにより形成されることを特徴とする請求項 3 に記載の画像形成装置。

【請求項 5】 前記サービスモジュールは、エンジンをコントロールするエンジンコントロールサービス、メモリおよびハードディスクをコントロールするメモリコントロールサービス、オペレーションパネルをコントロールするオペレーションパネルコントロールサービス、ファックス通信をコントロールするファックスコントロールサービスまたはネットワーク通信をコントロールするネット

ワークコントロールサービスのいずれか 2 以上のモジュールにより形成されることを特徴とする請求項 4 に記載の画像形成装置。

【請求項 6】 前記サービスモジュールは、ネットワーク通信をコントロールするネットワークコントロールサービスを少なくとも有し、前記アプリケーションは、前記ネットワークコントロールサービスにより接続されたネットワークを経由して取得されて搭載されることを特徴とする請求項 4 に記載の画像形成装置。

【請求項 7】 前記プラットフォームは、汎用オペレーティングシステムをさらに有し、前記システムリソースマネージャーは、前記汎用オペレーティングシステムを介して前記一または複数のハードウェア資源を管理することを特徴とする請求項 3 ～ 6 のいずれか一つに記載の画像形成装置。

【請求項 8】 前記複数のアプリケーションは、それぞれアプリケーションごとに追加または削除することができることを特徴とする請求項 1 ～ 7 のいずれか一つに記載の画像形成装置。

【請求項 9】 前記複数のアプリケーションは、前記プリンタ、コピー並びにファクシミリなどの各サービスにかかる画面制御、キー操作制御並びにジョブ生成をそれぞれおこなうことを特徴とする請求項 1 ～ 8 のいずれか一つに記載の画像形成装置。

【請求項 1 0】 前記複数のアプリケーションは、プリンタアプリ、コピーアプリ、ファックスアプリ、スキャナアプリ、ネットファイルアプリおよび工程検査アプリを少なくとも有することを特徴とする請求項 9 に記載の画像形成装置。

【請求項 1 1】 表示部、印刷部および撮像部などの画像形成処理で使用されるハードウェア資源を用いて、プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの画像形成処理に係るユーザーサービスを提供する画像形成方法であって、

複数搭載可能なアプリケーションを用いて前記プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの各ユーザーサービスにそれぞれ固有の処理をおこない、

前記アプリケーションと前記ハードウェア資源との間に介在するプラットフォームを用いて、前記ユーザーサービスを提供する際に、前記アプリケーションの少

なくとも2つが共通的に必要とする前記ハードウェア資源の管理、実行制御並びに画像形成処理をおこなう

ことを特徴とする画像形成方法。

【請求項12】 表示部、印刷部および撮像部などの画像形成処理で使用されるハードウェア資源を有し、プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの画像形成処理に係るユーザーサービスを提供する画像形成装置に複数搭載可能なアプリケーションプログラムであって、

前記プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの各ユーザーサービスを提供する際に、前記ハードウェア資源の管理、実行制御並びに画像形成処理をおこなうプラットフォーム上で動作実行する

ことを特徴とするプログラム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、表示部、印刷部および撮像部などの画像形成処理で使用されるハードウェア資源を有し、プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの画像形成処理に係るユーザーサービスを提供する画像形成装置、画像形成方法およびプログラムに関し、特に、プリンタ、コピーおよびファクシミリ装置などに対応する各ソフトウェア（アプリケーション）を効率良く開発するとともに装置全体としての生産性を高めることができる画像形成装置、画像形成方法およびプログラムに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、プリンタ、コピー、ファクシミリは、それぞれ別筐体として配設されるのが一般的であったが、最近では、これら各装置の機能を1つの筐体内に収納した画像形成装置（以下「複合機」と言う）が知られている。

【0003】

この複合機は、1つの筐体内に表示部、印刷部および撮像部などを設けるとともに、プリンタ、コピーおよびファクシミリ装置にそれぞれ対応する3種類のソ

フトウェアを設け、ソフトウェアの切り替えによって、該装置をプリンタ、コピーまたはファクシミリ装置として動作させるものである。

【0004】

かかる複合機を用いることにより、室内にプリンタ、コピーおよびファクシミリをそれぞれ別個に設ける必要がなくなるので、トータルな低コスト化および省スペース化を図ることができる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、かかる複合機内にプリンタ、コピーおよびファクシミリ装置に対応するソフトウェア（専用OSを含む）をそれぞれ別個に設けることとしたのでは、各ソフトウェアの開発に多大の時間を要する。

【0006】

すなわち、かかる従来の複合機は、単に筐体を1つにまとめたものにすぎず、従来と同様に、プリンタ用ソフトウェア、コピー用ソフトウェアおよびファクシミリ用ソフトウェアを別個に開発せねばならない。

【0007】

もともと、プリンタのソフトウェア、コピーのソフトウェアおよびファクシミリのソフトウェアは、同種の画像を取り扱う性質上様々な面でアルゴリズムが共用できるため、ソフトウェアを別個に作成していたのでは、メモリ容量の累増などを招く問題もある。

【0008】

このため最近では、3種類の専用OSを別個に設けた場合の重複処理を省くために、UNIXなどの汎用OSをかかる複合機に採用されることも多いが、単にOS部分を共通化するだけでは、ソフトウェアの開発効率をさほど高めることはできない。

【0009】

なお、特公平7-79368号公報には、サーバダイアログおよび分散型アプリケーションなどからなるアプリケーション層と、フォントマネージャーやネットワークマネージャーなどからなる機能層と、オペレーティングシステムなどが

らなる制御層とで文書サービスアーキテクチャーを階層化する電子印刷システムが開示されているが、この従来技術のものは、フォントなどの一部の機能を共通化したものにすぎず、各ソフトウェアの開発効率を高めるものではない。

【 0 0 1 0 】

また、複合機やプリンタなどに接続するパソコンには、複数のアプリケーションを搭載することができるが、このパソコンは、複合機に係るハードウェア資源を管理するものではない。本発明は、パソコンそのものではなく、パソコンが接続される複合機などの画像形成装置自体に関するものである。

【 0 0 1 1 】

この発明は、上述した従来技術による問題点を解消するためになされたものであり、プリンタ、コピーおよびファクシミリ装置などに対応する各ソフトウェア（アプリケーション）を効率良く開発するとともに装置全体としての生産性を高めることができる画像形成装置、画像形成方法およびプログラムを提供することを目的とする。

【 0 0 1 2 】

【課題を解決するための手段】

上述した課題を解決し、目的を達成するため、請求項 1 の発明に係る画像形成装置は、表示部、印刷部および撮像部などの画像形成処理で使用されるハードウェア資源を有し、プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの画像形成処理に係るユーザーサービスを提供する画像形成装置であって、前記プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの各ユーザーサービスにそれぞれ固有の処理をおこなうアプリケーションを複数搭載可能とし、前記アプリケーションと前記ハードウェア資源との間に介在し、前記ユーザーサービスを提供する際に、前記アプリケーションの少なくとも 2 つが共通的に必要とする前記ハードウェア資源の管理、実行制御並びに画像形成処理をおこなうプラットフォームを備えたことを特徴とする。

【 0 0 1 3 】

この請求項 1 の発明によれば、プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの各ユーザーサービスにそれぞれ固有の処理をおこなうアプリケーションを複数搭載可能とし、アプリケーションとハードウェア資源との間に介在し、ユーザーサー

ビスを提供する際に、アプリケーションの少なくとも2つが共通的に必要とするハードウェア資源の管理、実行制御並びに画像形成処理をおこなうプラットフォームを設けることとしたので、各ユーザーサービスのアプリケーションを作成する場合には、プラットフォーム以外の部分を作成すれば足りる。

【 0 0 1 4 】

また、請求項2の発明に係る画像形成装置は、請求項1の発明において、前記プラットフォームは、あらかじめ定義された関数により前記アプリケーションからの処理要求を受信可能とするアプリケーションプログラムインターフェースを有することを特徴とする。

【 0 0 1 5 】

この請求項2の発明によれば、あらかじめ定義された関数によりアプリケーションからの処理要求を受信可能とするアプリケーションプログラムインターフェースをプラットフォームに設けることとしたので、アプリケーションとプラットフォームの間の円滑な連携を維持することができる。

【 0 0 1 6 】

また、請求項3の発明に係る画像形成装置は、請求項1～2の発明において、前記プラットフォームは、前記アプリケーションからの処理要求を解釈して、前記ハードウェア資源の獲得要求を発生させるコントロールサービスと、一または複数のハードウェア資源の管理をおこない、前記コントロールサービスからの前記獲得要求を調停するシステムリソースマネージャーとを有することを特徴とする。

【 0 0 1 7 】

この請求項3の発明によれば、プラットフォーム内に、アプリケーションからの処理要求を解釈して、ハードウェア資源の獲得要求を発生させるコントロールサービスと、一または複数のハードウェア資源の管理をおこない、コントロールサービスからの獲得要求を調停するシステムリソースマネージャーとを設けることとしたので、各アプリケーションによるハードウェア資源の利用などを円滑におこなうことができる。

【 0 0 1 8 】

また、請求項 4 の発明に係る画像形成装置は、請求項 3 の発明において、前記コントロールサービスが、複数のサービスモジュールにより形成されることを特徴とする。

【 0 0 1 9 】

この請求項 4 の発明によれば、コントロールサービスは、複数のサービスモジュールにより形成されることとしたので、モジュールレベルでプラットフォームの機能拡張や機能変更を実現することができる。

【 0 0 2 0 】

また、請求項 5 の発明に係る画像形成装置は、請求項 4 の発明において、前記サービスモジュールは、エンジンをコントロールするエンジンコントロールサービス、メモリおよびハードディスクをコントロールするメモリコントロールサービス、オペレーションパネルをコントロールするオペレーションパネルコントロールサービス、ファックス通信をコントロールするファックスコントロールサービスまたはネットワーク通信をコントロールするネットワークコントロールサービスのいずれか 2 以上のモジュールにより形成されることを特徴とする。

【 0 0 2 1 】

この請求項 5 の発明によれば、サービスモジュールが、エンジンをコントロールするエンジンコントロールサービス、メモリおよびハードディスクをコントロールするメモリコントロールサービス、オペレーションパネルをコントロールするオペレーションパネルコントロールサービス、ファックス通信をコントロールするファックスコントロールサービスまたはネットワーク通信をコントロールするネットワークコントロールサービスのいずれか 2 以上のモジュールにより形成されることとしたので、プラットフォームによってエンジン制御、メモリ制御、オペパネ制御、ファックス通信制御またはネットワーク通信制御をおこなうことができる。

【 0 0 2 2 】

また、請求項 6 の発明に係る画像形成装置は、請求項 4 の発明において、前記サービスモジュールは、ネットワーク通信をコントロールするネットワークコントロールサービスを少なくとも有し、前記アプリケーションは、前記ネットワー

クコントロールサービスにより接続されたネットワークを経由して取得されて搭載されることを特徴とする。

【 0 0 2 3 】

この請求項 6 の発明によれば、サービスモジュールは、ネットワーク通信をコントロールするネットワークコントロールサービスを少なくとも有し、アプリケーションは、ネットワークコントロールサービスにより接続されたネットワークを経由して取得されて搭載されることとしたので、外部のネットワークを介して新たなアプリケーションを効率良く搭載することができる。

【 0 0 2 4 】

また、請求項 7 の発明に係る画像形成装置は、請求項 3 ～ 6 の発明において、前記プラットフォームは、汎用オペレーティングシステムをさらに有し、前記システムリソースマネージャーは、前記汎用オペレーティングシステムを介して前記一または複数のハードウェア資源を管理することを特徴とする。

【 0 0 2 5 】

この請求項 7 の発明によれば、プラットフォームが、汎用オペレーティングシステムをさらに有し、システムリソースマネージャーは、汎用オペレーティングシステムを介して一または複数のハードウェア資源を管理することとしたので、汎用オペレーティングシステム下でのプロセス実行により、効率良くハードウェア資源を管理することができる。

【 0 0 2 6 】

また、請求項 8 の発明に係る画像形成装置は、請求項 1 ～ 7 の発明において、前記複数のアプリケーションは、それぞれアプリケーションごとに追加または削除することを特徴とする。

【 0 0 2 7 】

この請求項 8 の発明によれば、各アプリケーションが、それぞれアプリケーションごとに追加または削除できることとしたので、画像形成装置の機能をユーザーが望む形に最適化することができる。

【 0 0 2 8 】

また、請求項 9 の発明に係る画像形成装置は、請求項 1 ～ 8 の発明において、

前記複数のアプリケーションは、前記プリンタ、コピー並びにファクシミリなどの各サービスにかかる画面制御、キー操作制御並びにジョブ生成をそれぞれおこなうことを特徴とする。

【 0 0 2 9 】

この請求項 9 の発明によれば、各アプリケーションが、プリンタ、コピー並びにファクシミリなどの各サービスにかかる画面制御、キー操作制御並びにジョブ生成をそれぞれおこなうこととしたので、かかるユーザーインターフェースに関連する処理をおこなう軽易なアプリケーションを用いて各種処理を実現することができる。

【 0 0 3 0 】

また、請求項 1 0 の発明に係る画像形成装置は、請求項 9 の発明において、前記複数のアプリケーションは、プリンタアプリ、コピーアプリ、ファックスアプリ、スキャナアプリ、ネットファイルアプリおよび工程検査アプリを少なくとも有することを特徴とする。

【 0 0 3 1 】

この請求項 1 0 の発明によれば、複数のアプリケーションが、プリンタアプリ、コピーアプリ、ファックスアプリ、スキャナアプリ、ネットファイルアプリおよび工程検査アプリを少なくとも有することとしたので、ユーザーがプリンタ、コピー、ファックス、スキャナ、ネットファイルおよび工程検査をおこなうことができる。

【 0 0 3 2 】

また、請求項 1 1 の発明に係る画像形成方法は、表示部、印刷部および撮像部などの画像形成処理で使用するハードウェア資源を用いて、プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの画像形成処理に係るユーザーサービスを提供する画像形成方法であって、複数搭載可能なアプリケーションを用いて前記プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの各ユーザーサービスにそれぞれ固有の処理をおこない、前記アプリケーションと前記ハードウェア資源との間に介在するプラットフォームを用いて、前記ユーザーサービスを提供する際に、前記アプリケーションの少なくとも 2 つが共通的に必要とする前記ハードウェア資源の管理、実行制御

並びに画像形成処理をおこなうことを特徴とする。

【 0 0 3 3 】

この請求項 1 1 の発明によれば、複数搭載可能なアプリケーションを用いてプリンタ、コピーまたはファクシミリなどの各ユーザーサービスにそれぞれ固有の処理をおこない、アプリケーションとハードウェア資源との間に介在するプラットフォームを用いて、ユーザーサービスを提供する際に、アプリケーションの少なくとも 2 つが共通的に必要とするハードウェア資源の管理、実行制御並びに画像形成処理をおこなうこととしたので、各ユーザーサービスのアプリケーションを作成する場合には、プラットフォーム以外の部分を作成すれば足りる。

【 0 0 3 4 】

また、請求項 1 2 の発明に係るプログラムは、表示部、印刷部および撮像部などの画像形成処理で使用するハードウェア資源を有し、プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの画像形成処理に係るユーザーサービスを提供する画像形成装置に複数搭載可能なアプリケーションプログラムであって、前記プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの各ユーザーサービスを提供する際に、前記ハードウェア資源の管理、実行制御並びに画像形成処理をおこなうプラットフォーム上で動作実行することを特徴とする。

【 0 0 3 5 】

この請求項 1 2 の発明によれば、アプリケーションプログラムが、プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの各ユーザーサービスを提供する際に、ハードウェア資源の管理、実行制御並びに画像形成処理をおこなうプラットフォーム上で動作実行することとしたので、プラットフォームを利用した処理の軽いアプリケーションプログラムを提供することができる。

【 0 0 3 6 】

【発明の実施の形態】

以下に添付図面を参照して、この発明に係る画像形成装置、画像形成方法およびプログラムの好適な実施の形態を詳細に説明する。なお、本実施の形態では、本発明を複合機に適用した場合を示すこととする。

【 0 0 3 7 】

(実施の形態 1)

まず最初に、本実施の形態 1 に係る複合機概念について図 1 および図 2 を用いて説明する。図 1 は、本実施の形態 1 に係る複合機概念を説明するための説明図であり、図 2 は、図 1 に示したプラットフォームを説明するための説明図である。

【0038】

図 1 (a) に示すように、従来のプリンタ 100 は、描画・印刷機能並びにエンジン制御をおこなう専用 OS 101 上にプリンタ用アプリケーション（プリンタアプリ）を搭載されていた。また、ファクシミリやコピーについても別個の筐体で構成されていた。また、これらを 1 つの筐体上にまとめる複合機も登場してきたが、単にプリンタ、コピーおよびファクシミリの機能を独立に設けたのでは効率的ではない。

【0039】

このため、同図 (b) に示すように、従来の専用 OS 101 を汎用 OS 部分 111 とエンジン制御部分 112 で形成し、これらをエンジンインターフェース (I/F) で連結するとともに、該汎用 OS 111 上にプリンタアプリ 113、コピーアプリ 114 および各種アプリ 115 を搭載する装置構成が採用されてきた。

【0040】

かかる複合機 110 では、たとえば UNIX などの汎用 OS を採用しているので、プリンタアプリ 113、コピーアプリ 114、各種アプリ 115 をそれぞれプロセスとして簡単に並列実行することができる。

【0041】

しかしながら、この複合機 110 についても、プリンタアプリ 113、コピーアプリ 114、各種アプリ 115 が、それぞれ独立に開発される必要があるので、各ソフトウェアの開発負担をさほど軽減できるわけではない。

【0042】

そこで、本実施の形態に係る複合機 120 では、図 1 (c) に示すように、各アプリケーションの共通部分を共通システムサービス 121 として括りだし、こ

の共通システムサービス 1 2 1 および汎用 OS 1 1 1 によりプラットフォーム 1 2 2 を形成する。

【 0 0 4 3 】

そして、このプラットフォーム 1 2 2 上に、プリンタアプリ 1 2 3、コピーアプリ 1 2 4 および各種アプリ 1 2 5 を搭載することとしたので、各アプリケーションの開発労力軽減並びにアプリケーションのスリム化を図ることができる。

【 0 0 4 4 】

たとえば、図 2 (a) に示すように、コピーアプリが 130,000 ステップ、ファックスアプリが 125,000 ステップ、プリンタアプリが 100,000 ステップのコードからなる場合に、これらを別個のアプリケーションとして形成すると、合計で $130,000 + 125,000 + 100,000 = 355,000$ ステップのコードを要する。

【 0 0 4 5 】

ここで、各アプリケーションに共通に利用できる部分が 180,000 ステップであるならば、この部分をプラットフォームとして集約することにより、生産性が向上する。

【 0 0 4 6 】

たとえば、同図 (b) に示すように、コピーアプリが 40,000 ステップ、ファックスアプリが 100,000 ステップ、プリンタアプリが 35,000 ステップ、プラットフォームが 90,000 ステップのコードで形成できるとすると、合計で $40,000 + 100,000 + 35,000 + 90,000 = 265,000$ ステップとなり、装置全体の生産性が 1 3 4 % ($355,000 / 265,000$) 向上する。

【 0 0 4 7 】

また、プラットフォーム部分を考えると、生産性が 2 0 0 % ($180,000 / 90,000$) 向上し、さらにコピーアプリ、ファックスアプリ、プリンタアプリの開発効率についても大幅に向上する。

【 0 0 4 8 】

このように、本実施の形態に係る複合機 1 2 0 では、共通システムサービス 1 2 1 および汎用 OS 1 1 1 からなるプラットフォーム 1 2 2 上に、プリンタアプリ 1 2 3、コピーアプリ 1 2 4 および各種アプリ 1 2 5 を搭載するよう構成してい

るので、装置全体の生産性を高めるとともに、各アプリケーションの開発効率を高めることができる。

【 0 0 4 9 】

次に、図 1 に示した複合機 1 2 0 のソフトウェア構成についてさらに詳細に説明する。図 3 は、図 1 に示した複合機 1 2 0 の具体的なソフトウェア構成を示す構成図である。

【 0 0 5 0 】

同図に示すように、この複合機 1 2 0 は、白黒ラインプリンタ (B&W LP) 3 0 1、カラーラインプリンタ (Color LP) 3 0 2、その他ハードウェアリソース 3 0 3 などを有するとともに、ソフトウェア群 3 1 0 は、プラットフォーム 3 2 0 およびアプリケーション 3 3 0 からなる。

【 0 0 5 1 】

プラットフォーム 3 2 0 は、アプリケーション 3 3 0 からの処理要求を解釈して、ハードウェア資源の獲得要求を発生させる下記に示すコントロールサービスと、一または複数のハードウェア資源の管理をおこない、コントロールサービスからの獲得要求を調停するシステムリソースマネージャー (SRM (System Resource Manager) 3 2 3) と、汎用 OS 3 2 1 とを有する。

【 0 0 5 2 】

このコントロールサービスは、複数のサービスモジュールにより形成され、具体的には、SCS (System Control Service) 3 2 2 と、ECS (Engine Control Service) 3 2 4 と、MCS (Memory Control Service) 3 2 5 と、OCS (Operation panel Control Service) 3 2 6 と、FCS (FAX Control Service) 3 2 7 と、NCS (Network Control Service) 3 2 8 とがある。なお、このプラットフォーム 3 2 0 は、あらかじめ定義された関数により前記アプリケーションからの処理要求を受信可能とするアプリケーションプログラムインターフェースを有する。

【 0 0 5 3 】

汎用 OS 3 2 1 は、UNIX などの汎用オペレーティングシステムであり、プラットフォーム 3 2 0 並びにアプリケーション 3 3 0 の各ソフトウェアをそれぞれ

プロセスとして並列実行する。オープンソースのUNIXを用いることにより、プログラムの安全性を確保できるとともに、ネットワーク対応可能となり、ソースコードの入手も容易となる。さらに、OS、TCP/IPのロイヤリティが不要であり、アウトソーシングも容易となる。

【0054】

SRM323は、SCS322とともにシステムの制御およびリソースの管理をおこなうものであり、スキャナ部やプリンタ部などのエンジン、メモリ、HDDファイル、ホストI/O（セントロI/F、ネットワークI/F、IEEE1394I/F、RS232CI/Fなど）のハードウェア資源を利用する上位層からの要求にしたがって調停をおこない、実行制御する。

【0055】

具体的には、このSRM323は、要求されたハードウェア資源が利用可能であるかどうか（他の要求により利用されていないかどうか）を判断し、利用可能であれば要求されたハードウェア資源が利用可能である旨を上位層に伝える。また、上位層からの要求に対してハードウェア資源の利用スケジューリングをおこない、要求内容（たとえば、プリンタエンジンによる紙搬送と作像動作、メモリ確保、ファイル生成など）を直接実施するようにしてもよい。

【0056】

SCS322は、（１）アプリ管理、（２）操作部制御、（３）システム画面表示（ジョブリスト画面、カウンタ表示画面など）、（４）LED表示、（５）リソース管理、（６）割り込みアプリ制御をおこなう。具体的には、（１）アプリ管理では、アプリの登録と、その情報を他のアプリに通知する処理をおこなう。登録されたアプリに対しては、システムの設定やアプリからの要求設定に応じてエンジン状態を通知する。また、登録済みのアプリに対しては、電力モード移行の問い合わせ、割り込みモードなど、システムの状態遷移のための可否問い合わせをおこなう。

【0057】

また、（２）操作部制御では、アプリの操作部使用権の排他制御をおこなう。そして、操作部の使用権を持つアプリへ操作部ドライバ（OCS）からのキー情

報を排他的に通知する。このキー情報は、アプリ切替中などのシステムの状態遷移に応じて一時的に通知を停止するマスク制御をおこなう。

【 0 0 5 8 】

また、（３）システム画面表示では、操作部使用権を持つアプリからの要求内容に応じて、エンジン状態に対応する警告画面の表示をおこなう。これらのなかには、利用者制限画面などアプリの状態に応じて警告表示をオン／オフするものもある。エンジン状態以外では、ジョブの予約・実行状況を表示するためのジョブリスト画面、トータルカウンタ類を表示するためのカウンタ画面、ＣＳＳの通報中を示す画面の表示制御をおこなう。これらのシステム画面表示に関しては、アプリへ操作部使用権の解放を要求せず、アプリ画面を覆うシステム画面として描画をおこなう。

【 0 0 5 9 】

また、（４）ＬＥＤ表示では、警告ＬＥＤ、アプリキーなどのシステムＬＥＤの表示制御をおこなう。アプリ固有のＬＥＤについては、アプリが直接表示用ドライバを使用して制御する。

【 0 0 6 0 】

また、（５）リソース管理では、アプリ（ＥＣＳ）がジョブを実行するにあたって、排他しなければならないエンジンリソース（スキャナ、ステープルなど）の排他制御のためのサービスをおこない、（６）割り込みアプリ制御では、特定のアプリを優先動作せさるための制御・サービスをおこなう。

【 0 0 6 1 】

ＥＣＳ 3 2 4 は、白黒ラインプリンタ（Ｂ＆Ｗ ＬＰ） 3 0 1、カラーラインプリンタ（Color LP） 3 0 2、その他ハードウェアリソース 3 0 3 などのエンジンを制御するものであり、画像読み込みと印刷動作、状態通知、ジャムリカバリなどをおこなう。

【 0 0 6 2 】

具体的には、アプリケーション 3 3 0 から受け取ったジョブモードの指定にしたがい、印刷要求を ＳＲＭ 3 2 3 に順次発行していくことで、一連のコピー／スキャン／印刷動作を実現する。この ＥＣＳ 3 2 4 が取り扱う対象のジョブは、画

像入力デバイスにスキャナ (SCANNER) が指定されているか、または、画像出力デバイスにプロッタ (PLOTTER) が指定されているものとする。

【 0 0 6 3 】

たとえば、コピー動作の場合には「SCANNER → PLOTTER」と指定され、ファイル蓄積の場合には「SCANNER → MEMORY」と指定され、ファクシミリ送信の場合には「SCANNER → FAX__IN」と指定される。また、蓄積ファイル印刷またはプリンタアプリ 3 1 1 からの印刷の場合には「MEMORY → PLOTTER」と指定され、ファクシミリ受信の場合には「FAX__OUT → PLOTTER」と指定される。

【 0 0 6 4 】

なお、ジョブの定義はアプリケーションによって異なるが、ここでは利用者が取り扱う 1 セットの画像群に対する処理動作を 1 ジョブと定義する。たとえば、コピーの A D F (Automatic Document Feeder) モードの場合は、原稿台に置かれた 1 セットの原稿を読み取る動作が 1 ジョブとなり、圧板モードは最終原稿が確定するまでの読み取り動作が 1 ジョブとなる。また、コピーアプリ 3 1 2 の場合には、一束の原稿をコピーする動作が 1 ジョブとなり、ファックスアプリ 3 1 3 の場合には、1 文書の送信動作または 1 文書の受信動作が 1 ジョブとなり、プリンタアプリの場合には、1 文書の印刷動作が 1 ジョブとなる。

【 0 0 6 5 】

M C S 3 2 5 は、メモリ制御をおこなうものであり、具体的には、画像メモリの取得および開放、ハードディスク装置 (H D D) の利用、画像データの圧縮および伸張などをおこなう。

【 0 0 6 6 】

ここで、ハードディスク装置に蓄積される画像データファイルとして必要な情報を管理するために必要な機能としては、(1) ファイルアクセス (生成 / 削除 / オープン / クローズ) 機能 (排他処理を含む)、(2) ファイル名称 / I D 管理 (ファイル / ユーザー) / パスワード管理 / 蓄積時刻管理 / ページ数 / データフォーマット (圧縮方式など) / アクセス制限 / 作成アプリ / 印刷条件管理などの各種ファイル属性管理 (物理的なページ単位の画像データのファイルとしての管理)、(3) ファイル単位およびページ単位での結合 / 挿入 / 切断機能、(4

）ファイルソート機能（蓄積時刻順／ユーザーID順など）、（5）全ファイル情報の通知（表示／検索用）、（6）リカバリ機能（破損ファイルのファイル／ページ破棄）、（7）ファイルの自動削除機能などがある。

【0067】

また、RAMなどのメモリへ画像データを保持しアクセスするための機能としては、（1）アプリケーション330からのファイルおよびページ／バンド属性情報を取得する機能、（2）アプリケーション330からの画像データ領域の確保、解放、リード（Read）、ライト（Write）機能などがある。

【0068】

OCS326は、オペレータと本体制御間の情報伝達手段となる操作パネルを制御するモジュールであり、オペレータのキー操作イベントを本体制御に通知する処理、各アプリがGUIを構築するためのライブラリ関数を提供する処理、構築されたGUI情報をアプリ別に管理する処理、操作パネル上への表示反映処理などをおこなう。

【0069】

このOCS326は、（1）GUI構築のためのライブラリの提供機能、（2）操作部ハードウェア資源管理機能、（3）VRAM描画／LCD表示機能（ハードウェア表示、表示アプリ切替、表示言語切替、ウィンドウ暗色表示、メッセージ／アイコンブリンク表示、メッセージの連結表示）、（4）ハードキー入力検出機能、（5）タッチパネルキー入力検出機能、（6）LED出力機能、（7）ブザー出力機能などを有する。

【0070】

FCS327は、システムコントローラの各アプリ層からPSTN／ISDN網を使ったファクシミリ送受信、BKM（バックアップSRAM）で管理されている各種ファクシミリデータの登録／引用、ファクシミリ読み取り、ファクシミリ受信印刷、融合送受信をおこなうためのAPIを提供するものである。

【0071】

具体的には、このFCS327は、（1）アプリ層から送信依頼されたドキュメントをPSTN／ISDN網を使ってファクシミリ受信機に送信をおこなう送

信機能、(2) PSTN/I SDN網から受信したファクシミリ受信画面、各種レポート類を各アプリ層に転送、印刷をおこなう受信機能、(3) ファックスボードに記憶されている電話帳、グループ情報などのファクシミリ管理項目の引用や登録をおこなう電話帳引用・登録機能、(4) ファックスボードに搭載されているBKMに記憶されている送受信結果履歴情報などを必要としているアプリに通知するファックスログ通知機能、(5) ファックスボードの状態変化があったときにFCSに登録してあるアプリに変化のあったイベントを通知するイベント通知機能などを有する。

【0072】

NCS328は、ネットワークI/Oを必要とするアプリケーションに対して共通に利用できるサービスを提供するためのモジュール群であり、ネットワーク側から各プロトコルによって受信したデータを各アプリケーションに振り分けたり、アプリケーションからデータをネットワーク側に送信する際の仲介をおこなう。具体的には、ftpd、httpd、lpd、snmpd、telnetd、smtpdなどのサーバデーモンや、同プロトコルのクライアント機能などを有する。

【0073】

アプリケーション330は、ページ記述言語(PDL)、PCLおよびポストスクリプト(PS)を有するプリンタ用のアプリケーションであるプリンタアプリ311と、コピー用アプリケーションであるコピーアプリ312と、ファクシミリ用アプリケーションであるファックスアプリ313と、スキャナ用アプリケーションであるスキャナアプリ314と、ネットファイル用アプリケーションであるネットファイルアプリ315と、工程検査用アプリケーションである工程検査アプリ316とを有する。各アプリケーション311～316は、プラットフォーム320上の各プロセスを利用して動作実行し得るため、画面制御、キー操作制御およびジョブ生成などをおこなう画面表示制御プログラムがその主体となる。なお、NCS328により接続されたネットワークを介して新たなアプリケーションをネットワーク経由で搭載することもできる。また、各アプリケーションはアプリケーションごとに追加または削除することができる。

【0074】

次に、図 3 に示したコピーアプリ 3 1 2 を用いたコピー動作、プリンタアプリ 3 1 1 を用いたプリント動作、スキャナアプリ 3 1 4 を用いたスキャナ動作についてさらに具体的に説明する。

【 0 0 7 5 】

図 4 は、図 3 に示したコピーアプリ 3 1 2 を用いたコピー動作を説明するための説明図である。同図に示すように、コピーアプリ 3 1 2 はコピー画面・キー操作モジュール 3 1 2 a とコピージョブ生成モジュール 3 1 2 b を有し、オペパネからコピー条件が指定され、スタートキーが押下されると、コピー画面・キー操作モジュール 3 1 2 a がコピージョブ生成モジュール 3 1 2 b に対してコピー条件を転送する（ステップ S 4 0 1）。なお、このコピー条件には、紙サイズ、部数、両面、ソート、ステープルなどがある。

【 0 0 7 6 】

その後、コピージョブ生成モジュール 3 1 2 b は、E C S 3 2 4 の A P I を用いてエンジンジョブ実行制御モジュール 3 2 4 a に対してエンジンジョブ生成関数を呼び出し、ジョブモードの設定をおこなう。なお、かかるジョブモードとは、スキャナ、プロッタ、フィニッシャなどを動作させるために必要なパラメータ群であり、上記コピー条件から生成される。さらに、コピージョブ生成モジュール 3 1 2 b は、E C S 3 2 4 の A P I を用いてエンジンジョブ実行制御モジュール 3 2 4 a に対してジョブ実行開始関数を呼び出し、ジョブ実行を指示する（ステップ S 4 0 2）。

【 0 0 7 7 】

エンジンジョブ実行制御モジュール 3 2 4 a は、M C S 3 2 5 の A P I を用いて画像メモリハンドリングモジュール 3 2 5 a に対して画像メモリ確保関数を呼び出し、画像メモリの確保を指示する（ステップ S 4 0 3）。

【 0 0 7 8 】

画像メモリハンドリングモジュール 3 2 5 a は、S R M 3 2 3 のメモリ資源管理モジュール 3 2 3 b に対してメモリ取得関数を呼び出しメモリを取得する（ステップ S 4 0 4）。エンジンジョブ実行制御モジュール 3 2 4 a は、S R M 3 2 3 のエンジン資源管理モジュールに対して資源取得関数を呼び出し、スキャナお

よびプロッタの動作を開始し、コピージョブを実行する。

【 0 0 7 9 】

次に、図 3 に示したプリンタアプリ 3 1 1 を用いたプリント動作についてさらに具体的に説明する。図 5 は、図 3 に示したプリンタアプリ 3 1 1 を用いたプリント動作を説明するための説明図である。同図に示すように、プリンタアプリ 3 1 1 は、R I P 処理モジュール 3 1 1 a と、プリンタ画面・キー操作モジュール 3 1 1 b と、プリントジョブ生成モジュール 3 1 1 c と、プリントデータ通信モジュール 3 1 1 d とを有する。

【 0 0 8 0 】

P C などのホストからセントロ I / F、U S B I / F、ネットワーク I / F などを経由して S R M 3 2 3 のホスト I / O 資源管理モジュール 3 2 3 d に印刷データコマンドが入力されると（ステップ S 5 0 1）、このホスト I / O 資源管理モジュール 3 2 3 d は、印刷データを N C S 3 2 8 のホスト通信 I / F 制御モジュール 3 2 8 a に転送する。ここで、このホスト通信 I / F 制御モジュール 3 2 8 a は、入力された印刷データを解析して送り先アプリケーションを判定する。ホスト通信 I / F 制御モジュール 3 2 8 a は、複数の通信プロトコルまたはホスト I / F からデータを受け取り、送り先を調停する（ステップ S 5 0 2）。

【 0 0 8 1 】

印刷データが、プリンタアプリ 3 1 1 内のプリントデータ通信モジュール 3 1 1 d に転送されると（ステップ S 5 0 3）、さらにプリントジョブ生成モジュール 3 1 1 c に入力され、新たなプリントジョブが生成される（ステップ S 5 0 4）。

【 0 0 8 2 】

プリントジョブ生成モジュール 3 1 1 c は、印刷データの言語種類に応じて R I P 処理モジュール 3 1 1 a にデータを転送し（ステップ S 5 0 5）、この R I P 処理モジュール 3 1 1 a は、印刷データの画像展開をおこなった後に、プリントジョブ生成モジュール 3 1 1 c に戻される（ステップ S 5 0 6）。

【 0 0 8 3 】

そして、このプリントジョブ生成モジュール 3 1 1 c で生成された画像データ

は、MCS 3 2 5 の画像メモリハンドリングモジュール 3 2 5 a に出力される（ステップ S 5 0 7）。画像メモリには複数のアプリからの要求が発生するため、メモリ資源の調停をおこなう SRM 3 2 3 のメモリ資源管理モジュール 3 2 3 b に対してメモリ確保要求を発行し、取得した後に展開された画像データがメモリ上に書き込まれる（ステップ S 5 0 8）。

【 0 0 8 4 】

画像データの印刷準備が完了すると、プリントジョブ生成モジュール 3 1 1 c が ECS 3 2 4 の API を用いてエンジンジョブ実行制御モジュール 3 2 4 a に対してエンジンジョブ生成関数を呼び出し、ジョブモード設定をおこなった後に、ジョブ開始関数を呼び出し、ジョブ実行を指示する（ステップ S 5 0 9）。

【 0 0 8 5 】

エンジンジョブ実行制御モジュール 3 2 4 a は、SRM 3 2 3 のエンジン資源管理モジュール 3 2 3 a に対してエンジン資源取得関数を呼び出し、プロッタの動作を開始し、プリントジョブを実行する（ステップ S 5 1 0）。

【 0 0 8 6 】

次に、図 3 に示したスキャナアプリ 3 1 4 を用いたスキャナ動作についてさらに具体的に説明する。図 6 は、図 3 に示したスキャナアプリ 3 1 4 を用いたスキャナ動作を説明するための説明図である。同図に示すように、スキャナアプリ 3 1 4 は、スキャナ画面・キー操作モジュール 3 1 4 a と、スキャナジョブ生成モジュール 3 1 4 b と、スキャナデータ通信モジュール 3 1 4 c とを有する。

【 0 0 8 7 】

オペパネからスキャナアプリ 3 1 4 を選択するとともにスキャン条件が入力され、スタートキーが押下されると、スキャナ画面・キー操作モジュール 3 1 4 a がスキャナジョブ生成モジュール 3 1 4 b に対してスキャナ条件を転送すると（ステップ S 6 0 1）、スキャナジョブ生成モジュール 3 1 4 b は、要求された画像サイズにしたがってスキャンに必要なメモリを確保するために、MCS 3 2 5 の画像メモリハンドリングモジュール 3 2 5 a が、メモリ資源の調停をおこなう SRM 3 2 3 のメモリ資源管理モジュール 3 2 3 b に対してメモリ確保要求を発行し、メモリが取得された後に画像データがメモリ上に書き込まれる（ステップ

S 6 0 2 ~ S 6 0 3)。

【 0 0 8 8 】

画像データのスキャン準備が完了すると、スキャナジョブ生成モジュール 3 1 4 b が、E C S 3 2 4 の A P I を用いてエンジンジョブ実行制御モジュール 3 2 4 a に対してエンジンジョブ生成関数を呼び出し、ジョブモード設定をおこなった後にジョブ開始関数を呼び出し、スキャンジョブ実行を指示する (ステップ S 6 0 4)。

【 0 0 8 9 】

エンジンジョブ実行制御モジュール 3 2 4 a は、S R M 3 2 3 のエンジン資源管理モジュール 3 2 3 a に対してエンジン資源取得関数を呼び出し、スキャナの動作を開始し、スキャナジョブを実行する (ステップ S 6 0 5)。

【 0 0 9 0 】

スキャナジョブ生成モジュール 3 1 4 b が、E C S 3 2 4 からスキャン完了のイベントを受け取ると、読み取り画像をネットワーク他のホスト I / O 資源を利用して外部の P C に転送をおこなうため、スキャナデータ通信モジュール 3 1 4 c が N C S 3 2 8 のホスト通信 I / F 制御モジュール 3 2 8 a に対して U R L などの転送先 P C のアドレスおよびスキャンした画像データ (またはメモリ上のアドレス) を送る (ステップ S 6 0 6 ~ S 6 0 7)。ここでは、f t p や h t t p などのファイル転送をおこなうプロトコル機能を使って画像データ通信を制御することとする。

【 0 0 9 1 】

ホスト通信 I / F 制御モジュール 3 2 8 a は、ネットワーク、IEEE1394、U S B、S C S I などのホスト I / O 資源を確保するために、S R M 3 2 3 のホスト I / O 資源管理モジュール 3 2 3 d の資源確保関数を呼び出す (ステップ S 6 0 8)。ホスト I / O 資源管理モジュール 3 2 3 d は、要求されたホスト I / O 資源が利用可能となった時点で画像データ通信をおこなう (ステップ S 6 0 9)。

【 0 0 9 2 】

次に、コピーアプリ 3 1 2、プリンタアプリ 3 1 1、スキャナアプリ 3 1 4 の 3 つのアプリケーションの起動時処理と、それぞれのアプリ画面を生成し表示す

る処理と、アプリ画面選択キーが押下されたときの処理について説明する。図 7 は、コピーアプリ 3 1 2、プリンタアプリ 3 1 1、スキャナアプリ 3 1 4 の 3 つのアプリケーションの起動時処理と、それぞれのアプリ画面を生成し表示する処理と、アプリ画面選択キーが押下されたときの処理を説明するための説明図である。

【 0 0 9 3 】

アプリケーションの起動時処理； 電源オンやシステムリセット時には少なくとも S C S 3 2 2 と O C S 3 2 6 が起動された後にアプリケーションが起動される。コピーアプリ 3 1 2、プリンタアプリ 3 1 1 およびスキャナアプリ 3 1 4 は、S C S 3 2 2 のアプリ登録管理モジュール 3 2 2 b に対して起動された旨を登録する（ステップ S 7 0 1 ～ S 7 0 3）。

【 0 0 9 4 】

画面生成処理； O C S 3 2 6 では、複数のアプリケーションがそれぞれ仮想的な画面メモリを複数持つことができる図面管理機能を有する。このため、コピーアプリ 3 1 2、プリンタアプリ 3 1 1 およびスキャナアプリ 3 1 4 は、それぞれウインドウ制御ライブラリモジュール 3 2 6 a により画面生成を実行することができる（ステップ S 7 0 4 ～ S 7 0 8）。

【 0 0 9 5 】

表示処理； 複数の画面メモリのうち一つが表示パネル上に描画される。また、複数の画面メモリの内容を合成した画面が表示されるようにしても良い。たとえば、コピー動作中にファックス受信した場合には、アプリ共通の画面領域にファックス受信中である旨を表示することができる。

【 0 0 9 6 】

画面切替処理； 表示パネルに描画される画面メモリは、S C S 3 2 2 のシステム画面表示制御モジュールによって切り換えられる。たとえば、操作パネル上のアプリ選択キーが押下された場合には、ステップ S 7 0 9 ～ S 7 1 4 にしたがって選択されたアプリ画面が描画される。また、S C S 3 2 2 には、機器内部ハードウェアやエンジンの状態情報を保持する機器状態管理モジュール 3 2 2 c があるため、ジャムや紙なしなどのエラーや異常時の表示画面などを切り換えるこ

とができる。

【 0 0 9 7 】

次に、ファックスアプリ 3 1 3 またはプリンタアプリ 3 1 1 を用いたファックス送信動作について説明する。図 8 は、ファックスアプリ 3 1 3 またはプリンタアプリ 3 1 1 を用いたファックス送信動作を説明するための説明図である。

【 0 0 9 8 】

同図に示すように、ファックスアプリ 3 1 3 を用いたファックス送信動作については、ファックス操作画面において送信宛先番号が入力され、スタートキーが押下されると、ファックス画面・キー操作モジュール 3 1 3 a がファックスジョブ生成モジュール 3 1 3 b に対してジョブ生成関数を呼び出し（ステップ S 8 0 1）、このファックスジョブ生成モジュール 3 1 3 b が、F C S 3 2 7 のファックスジョブ実行制御モジュール 3 2 7 a に対して送信開始関数を呼び出す（ステップ S 8 0 2）。

【 0 0 9 9 】

すると、このファックスジョブ実行制御モジュール 3 2 7 a は、E C S 3 2 4 の A P I を用いてエンジンジョブ実行制御モジュール 3 2 4 a に対してエンジンジョブ生成関数を呼び出し、ジョブモードの設定をおこなう（ステップ S 8 0 3）。このエンジンジョブ実行制御モジュール 3 2 4 a は、M C S 3 2 5 の A P I を用いて画像メモリハンドリングモジュール 3 2 5 a に対して画像メモリ確保関数を呼び出し、画像メモリの確保を指示する（ステップ S 8 0 4）。

【 0 1 0 0 】

画像メモリハンドリングモジュール 3 2 5 a は、S R M 3 2 3 に対してメモリ取得関数を呼び出し、ファックス原稿のスキャンに必要なメモリを取得し（ステップ S 8 0 5）、メモリが確保されると、エンジンジョブ実行制御モジュール 3 2 4 a は、S R M 3 2 3 のエンジン資源管理モジュール 3 2 3 a に対してスキャナ資源の確保を要求する関数を呼び、確保できた後にスキャナ動作を開始する（ステップ S 8 0 6）。

【 0 1 0 1 】

スキャナから原稿画像データがメモリ上に保持されると、E C S 3 2 4 から F

C S 3 2 7 に対してスキャン完了イベントが通知され、ファックスジョブ実行制御モジュール 3 2 7 a が、ファックスボード資源管理モジュール 3 2 3 g の送信開始関数を呼び出すと、P S T N、I S D N 回線などを使ってファックス送信手順が開始される（ステップ S 8 0 7 ～ S 8 0 8）。

【 0 1 0 2 】

次に、プリンタアプリ 3 1 1 を用いたファックス送信動作については、通常のプリント動作と同様に、印刷データがホスト I / O 資源管理モジュール 3 2 3 d に入力され、その際に送信宛先番号などのファクシミリ送信に必要な情報を含むコマンド情報が付加される（ステップ S 8 0 9）。

【 0 1 0 3 】

ファックス送信用の印刷データが、N C S 3 2 8 のホスト通信 I / F 制御モジュール 3 2 8 a からプリンタアプリ 3 1 1 のプリントデータ通信モジュール 3 1 1 d を経て、プリントジョブ生成モジュール 3 1 1 c に転送されると（ステップ S 8 1 0 ～ S 8 1 2）、新たなファックス送信用プリントジョブが生成される。

【 0 1 0 4 】

そして、印刷データが R I P 処理モジュール 3 1 1 a に転送され、画像データが生成されると、この画像データは、ファクシミリ送信に必要な情報とともに、F C S 3 2 7 のファックスジョブ実行制御モジュール 3 2 7 a に入力され（ステップ S 8 1 3 ～ S 8 1 5）、以後ファックス送信動作と同様の処理がなされる（ステップ S 8 0 7 ～ S 8 0 8）。

【 0 1 0 5 】

なお、上記ステップ S 8 1 3 ～ S 8 1 4 による R I P 処理をおこなうのではなく、P S T N や I S D N 回線などを使ってバイナリーデータの転送をおこなうプロトコル（B F T P ; Binary File Transfer Protocol）によって印刷データを送信することもできる。

【 0 1 0 6 】

また、ここでは説明の便宜上、送信動作のみを説明したが、たとえば、ステップ S 8 0 8、S 8 0 7、S 8 0 2、S 8 0 3、S 8 0 4、S 8 0 5、S 8 0 6 の順に処理することにより、ファックス受信や印刷が可能となる。なお、B F T P

を用いた印刷データの受信および印刷は、ステップ S 8 0 8、S 8 0 7、S 8 0 2、S 8 1 5、S 8 1 3、S 8 1 4、S 8 1 5、S 8 0 3、S 8 0 4、S 8 0 5、S 8 0 6 の順に処理することで実現できる。

【 0 1 0 7 】

次に、図 1 に示した複合機 1 2 0 のハードウェア構成について説明する。図 9 は、図 1 に示した複合機 1 2 0 のハードウェア構成を示す構成図である。同図に示すように、この複合機 1 2 0 は、CPU 9 0 2、SDRAM 9 0 3、フラッシュメモリ 9 0 4 および HD 9 0 5 などと ASIC 9 0 1 に接続したコントローラボード 9 0 0 と、オペレーションパネル 9 1 0 と、ファックスコントロールユニット (FCU) 9 2 0 と、USB 9 3 0 と、IEEE1394 9 4 0 と、プリンタ 9 5 0 とからなる。

【 0 1 0 8 】

そして、オペレーションパネル 9 1 0 は ASIC 9 0 1 に直接接続され、FCU 9 2 0、USB 9 3 0、IEEE1394 9 4 0 およびプリンタ 9 5 0 は、PCI バスを介して ASIC 9 0 1 に接続されている。

【 0 1 0 9 】

図 1 0 は、図 9 に示した ASIC 9 0 1 の細部構成を示すブロック図である。同図に示すように、この ASIC 9 0 1 は、CPU インターフェース (CPU I/F)、SDRAM インターフェース (SDRAM I/F)、ローカルバスインターフェース (Local BUS I/F)、PCI インターフェース (PCI I/F)、1 2 8 4、MAC (Media Access Controller)、I/O、OPE インターフェース (OPE I/F)、HD インターフェース (HD I/F)、Comp/de-comp、Rotate によって形成されている。

【 0 1 1 0 】

かかるハードウェア構成を採用することにより、デバイスの共有化による低コスト設計が可能となるとともに、アプリ間融合が容易となる。また、低速機から高速機までスケラブルなアーキテクチャとなり、各アプリで使用するハード／ソフトが共通化され、開発効率を向上させることができる。また、新規機能に対する対応が容易となる。

【 0 1 1 1 】

上述してきたように、本実施の形態 1 では、各アプリケーションの共通部分を共通システムサービス 1 2 1 として括りだし、この共通システムサービス 1 2 1 および汎用 OS 1 1 1 によりプラットフォーム 1 2 2 を形成し、このプラットフォーム 1 2 2 上に、プリンタアプリ 1 2 3、コピーアプリ 1 2 4 および各種アプリ 1 2 5 を搭載するよう構成したので、各アプリケーションの開発労力軽減並びにアプリケーションのスリム化を図ることができる。

【 0 1 1 2 】

(実施の形態 2)

ところで、本発明は上記実施の形態 1 に限定されるものではなく、プラットフォーム 3 2 0 およびアプリケーション 3 3 0 上のソフトウェアを階層化してさらに生産性を高めることもできる。そこで、本実施の形態 2 では、プラットフォーム 3 2 0 およびアプリケーション 3 3 0 上のソフトウェアを階層化する場合について説明する。なお、この場合のハードウェア構成は図 9 および図 1 0 と同様になるので、ここではその説明を省略する。

【 0 1 1 3 】

図 1 1 は、本実施の形態 2 に係る複合機のソフトウェア構成を示すブロック図である。同図に示すように、この複合機では、モノクロ／カラーの別並びにカラードラム数に応じて、各ソフトウェア要素が階層化されている。

【 0 1 1 4 】

具体的には、汎用 OS 1 1 0 0 上のデバイスドライバ (Device Driver) 1 1 0 1、ESC 1 1 0 2、MCS 1 1 0 3、SCS 1 1 0 4、SRM 1 1 0 5、コピーアプリ 1 1 0 6、プリンタアプリ 1 1 0 7 が、それぞれモノクロ、1 dram、4 dram と階層化されている。

【 0 1 1 5 】

また、ネットファイルアプリ 1 1 0 8、ネットスキャンアプリ 1 1 0 9、CSS アプリ 1 1 1 0 は、モノクロとカラーに階層化されている。ただし、モノクロ／カラーで区別する必要のないファックスアプリ 1 1 1 1、OCS 1 1 1 2、FCS 1 1 1 3 および NCS 1 1 1 4 は階層化されていない。

【 0 1 1 6 】

上述してきたように、本実施の形態 2 では、モノクロ／カラーの別並びにカラードラム数に応じて、各ソフトウェア要素を階層化するよう構成したので、さらにプラットフォームおよびアプリケーションの生産性を高めることができる。

【 0 1 1 7 】

なお、本実施の形態 2 では、モノクロ／カラーの別並びにカラードラム数に応じて各ソフトウェア要素を階層化することとしたが、本発明はこれに限定されるものではなく、プラットフォーム自体を多階層化することもできる。この場合には、エンジンなどのハードウェアに依存する部分は低階層となり、ハードウェアに依存しない部分が高階層となる。

【 0 1 1 8 】

【発明の効果】

以上説明したように、請求項 1 の発明によれば、プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの各ユーザーサービスにそれぞれ固有の処理をおこなうアプリケーションを複数搭載可能とし、アプリケーションとハードウェア資源との間に介在し、ユーザーサービスを提供する際に、アプリケーションの少なくとも 2 つが共通的に必要とするハードウェア資源の管理、実行制御並びに画像形成処理をおこなうプラットフォームを設けるよう構成したので、各ユーザーサービスのアプリケーションを作成する場合には、プラットフォーム以外の部分を作成すれば足り、もってアプリケーションの作成負担を軽減することができる。

【 0 1 1 9 】

また、請求項 2 の発明によれば、あらかじめ定義された関数によりアプリケーションからの処理要求を受信可能とするアプリケーションプログラムインターフェースをプラットフォームに設けるよう構成したので、アプリケーションとプラットフォームの間の円滑な連携を維持することができる。

【 0 1 2 0 】

また、請求項 3 の発明によれば、プラットフォーム内に、アプリケーションからの処理要求を解釈して、ハードウェア資源の獲得要求を発生させるコントロールサービスと、一または複数のハードウェア資源の管理をおこない、コントロール

サービスからの獲得要求を調停するシステムリソースマネージャーとを設けるよう構成したので、各アプリケーションによるハードウェア資源の利用などを円滑におこなうことができる。

【 0 1 2 1 】

また、請求項 4 の発明によれば、コントロールサービスは、複数のサービスモジュールにより形成されるよう構成したので、モジュールレベルでプラットフォームの機能拡張や機能変更を実現することができる。

【 0 1 2 2 】

また、請求項 5 の発明によれば、サービスモジュールが、エンジンをコントロールするエンジンコントロールサービス、メモリおよびハードディスクをコントロールするメモリコントロールサービス、オペレーションパネルをコントロールするオペレーションパネルコントロールサービス、ファックス通信をコントロールするファックスコントロールサービスまたはネットワーク通信をコントロールするネットワークコントロールサービスのいずれか 2 以上のモジュールにより形成されるよう構成したので、プラットフォームによってエンジン制御、メモリ制御、オペパネ制御、ファックス通信制御またはネットワーク通信制御をおこなうことができる。

【 0 1 2 3 】

また、請求項 6 の発明によれば、サービスモジュールは、ネットワーク通信をコントロールするネットワークコントロールサービスを少なくとも有し、アプリケーションは、ネットワークコントロールサービスにより接続されたネットワークを経由して取得されて搭載されるよう構成したので、外部のネットワークを介して新たなアプリケーションを効率良く搭載することができる。

【 0 1 2 4 】

また、請求項 7 の発明によれば、プラットフォームが、汎用オペレーティングシステムをさらに有し、システムリソースマネージャーは、汎用オペレーティングシステムを介して一または複数のハードウェア資源を管理するよう構成したので、汎用オペレーティングシステム下でのプロセス実行により、効率良くハードウェア資源を管理することができる。

【 0 1 2 5 】

また、請求項 8 の発明によれば、各アプリケーションが、それぞれアプリケーションごとに追加または削除できるよう構成したので、画像形成装置の機能をユーザーが望む形に最適化することができる。

【 0 1 2 6 】

また、請求項 9 の発明によれば、各アプリケーションが、プリンタ、コピー並びにファクシミリなどの各サービスにかかる画面制御、キー操作制御並びにジョブ生成をそれぞれおこなうよう構成したので、かかるユーザーインターフェースに関連する処理をおこなう軽易なアプリケーションを用いて各種処理を実現することができる。

【 0 1 2 7 】

また、請求項 1 0 の発明によれば、複数のアプリケーションが、プリンタアプリ、コピーアプリ、ファックスアプリ、スキャナアプリ、ネットファイルアプリおよび工程検査アプリを少なくとも有するよう構成したので、ユーザーがプリンタ、コピー、ファックス、スキャナ、ネットファイルおよび工程検査をおこなうことができる。

【 0 1 2 8 】

また、請求項 1 1 の発明によれば、複数搭載可能なアプリケーションを用いてプリンタ、コピーまたはファクシミリなどの各ユーザーサービスにそれぞれ固有の処理をおこない、アプリケーションとハードウェア資源との間に介在するプラットフォームを用いて、ユーザーサービスを提供する際に、アプリケーションの少なくとも 2 つが共通的に必要とするハードウェア資源の管理、実行制御並びに画像形成処理をおこなうよう構成したので、各ユーザーサービスのアプリケーションを作成する場合には、プラットフォーム以外の部分を作成すれば足りる。

【 0 1 2 9 】

また、請求項 1 2 の発明によれば、アプリケーションプログラムが、プリンタ、コピーまたはファクシミリなどの各ユーザーサービスを提供する際に、ハードウェア資源の管理、実行制御並びに画像形成処理をおこなうプラットフォーム上で動作実行するよう構成したので、プラットフォームを利用した処理の軽いアプリケ

ーションプログラムを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

この発明の実施の形態 1 に係る複合機 の概念を説明するための説明図である。

【図 2】

図 1 に示したプラットフォームを説明するための説明図である。

【図 3】

図 1 に示した複合機の具体的なソフトウェア構成を示す構成図である。

【図 4】

図 3 に示したコピーアプリを用いたコピー動作を説明するための説明図である。

【図 5】

図 3 に示したプリンタアプリを用いたプリント動作を説明するための説明図である。

【図 6】

図 3 に示したスキャナアプリを用いたスキャナ動作を説明するための説明図である。

【図 7】

コピーアプリ、プリンタアプリ、スキャナアプリの 3 つのアプリケーションの起動時処理と、それぞれのアプリ画面を生成し表示する処理と、アプリ画面選択キーが押下されたときの処理を説明するための説明図である。

【図 8】

ファックスアプリまたはプリンタアプリを用いたファックス送信動作を説明するための説明図である。

【図 9】

図 1 に示した複合機のハードウェア構成を示す構成図である。

【図 1 0】

図 9 に示した A S I C の細部構成を示すブロック図である。

【図 1 1】

実施の形態 2 に係る複合機のソフトウェア構成を示すブロック図である。

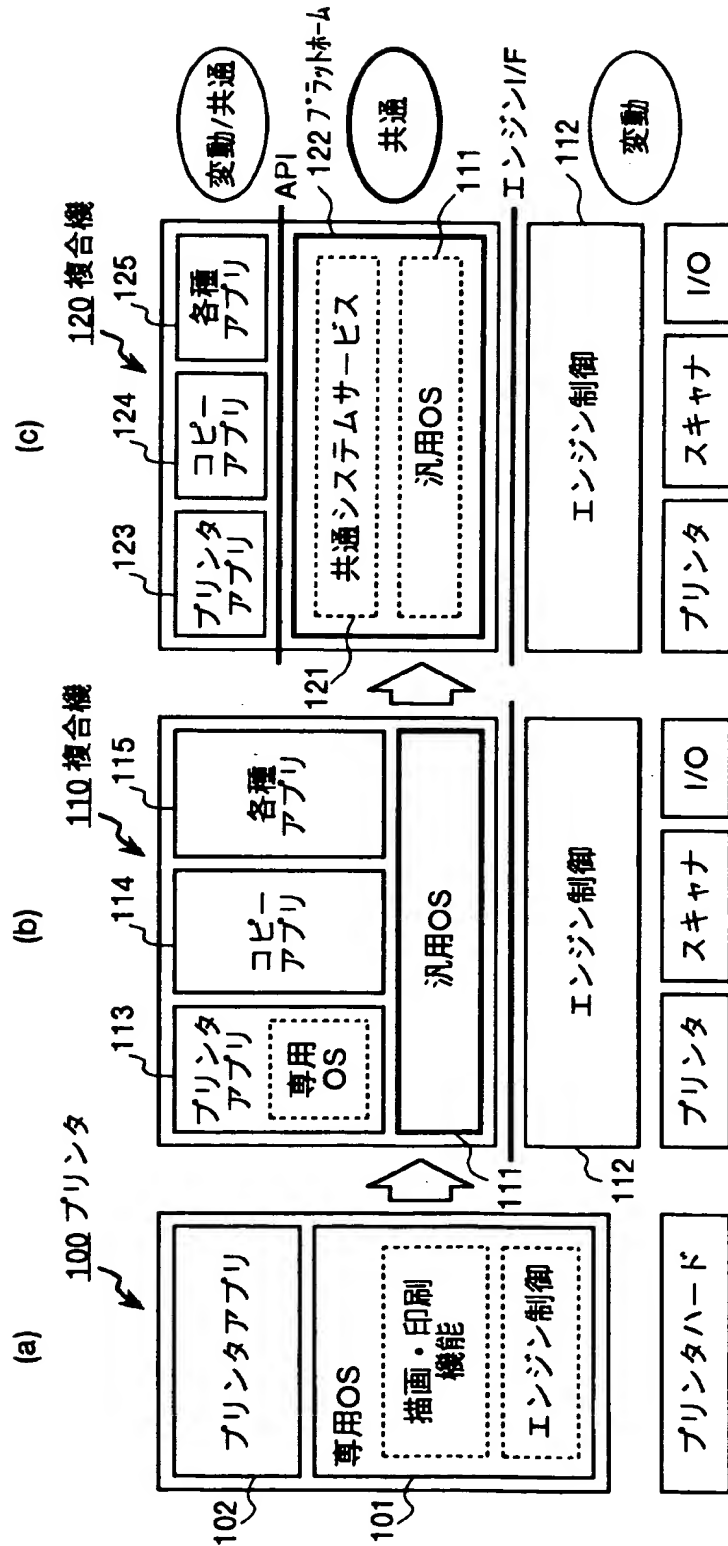
【符号の説明】

1 0 0	プリンタ
1 0 1	専用 OS
1 0 2	プリンタアプリ
1 1 0	複合機
1 1 1	汎用 OS
1 1 2	エンジン制御部
1 1 3	プリンタアプリ
1 1 4	コピーアプリ
1 1 5	各種アプリ
1 2 0	複合機
1 2 1	共通システムサービス
1 2 2	プラットフォーム
1 2 3	プリンタアプリ
1 2 4	コピーアプリ
1 2 5	各種アプリ

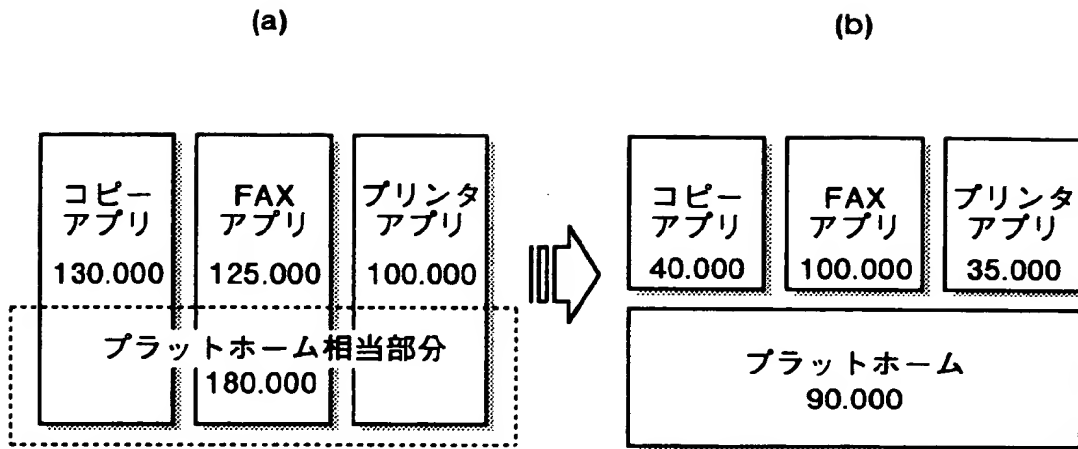
【書類名】

図面

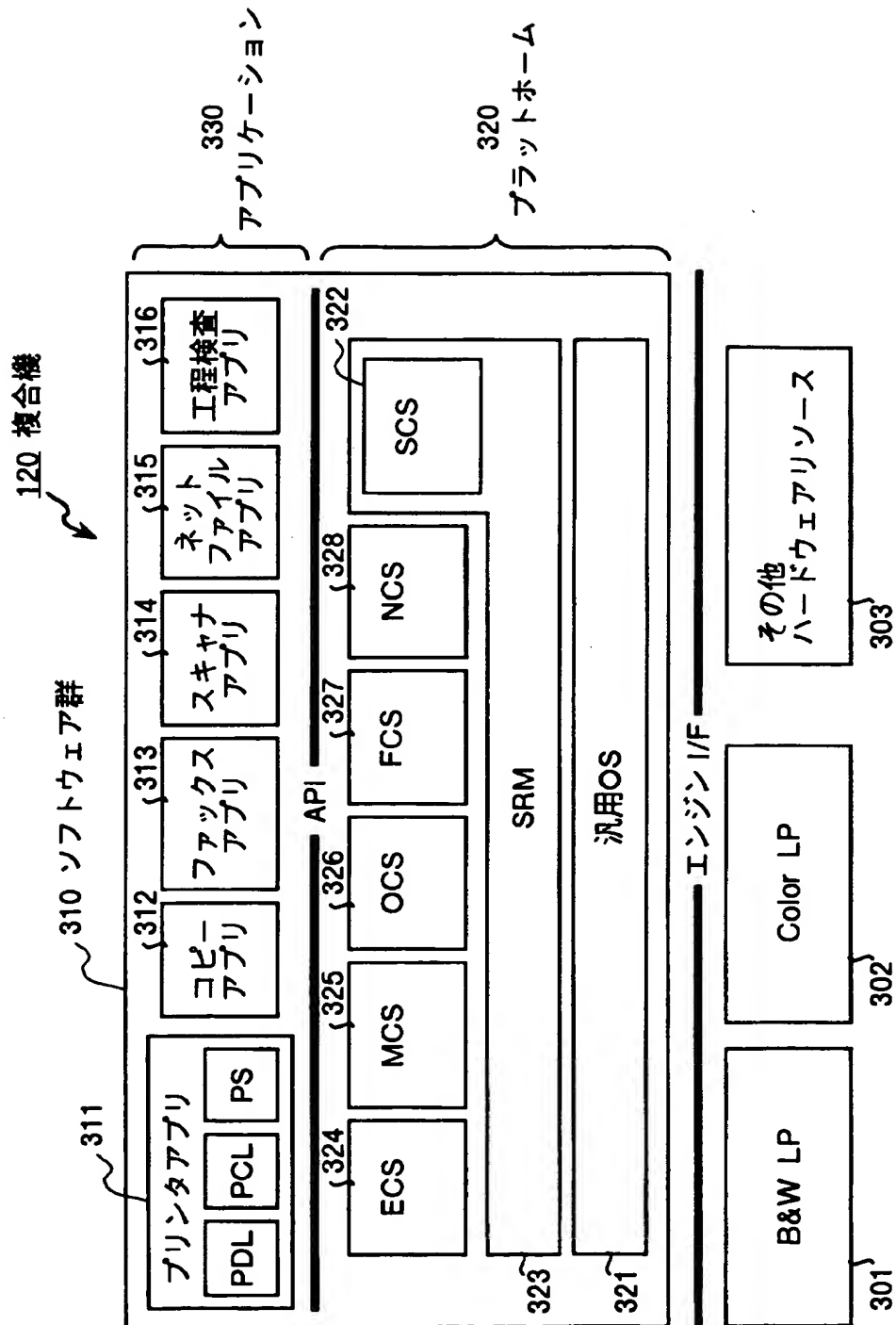
【図 1】



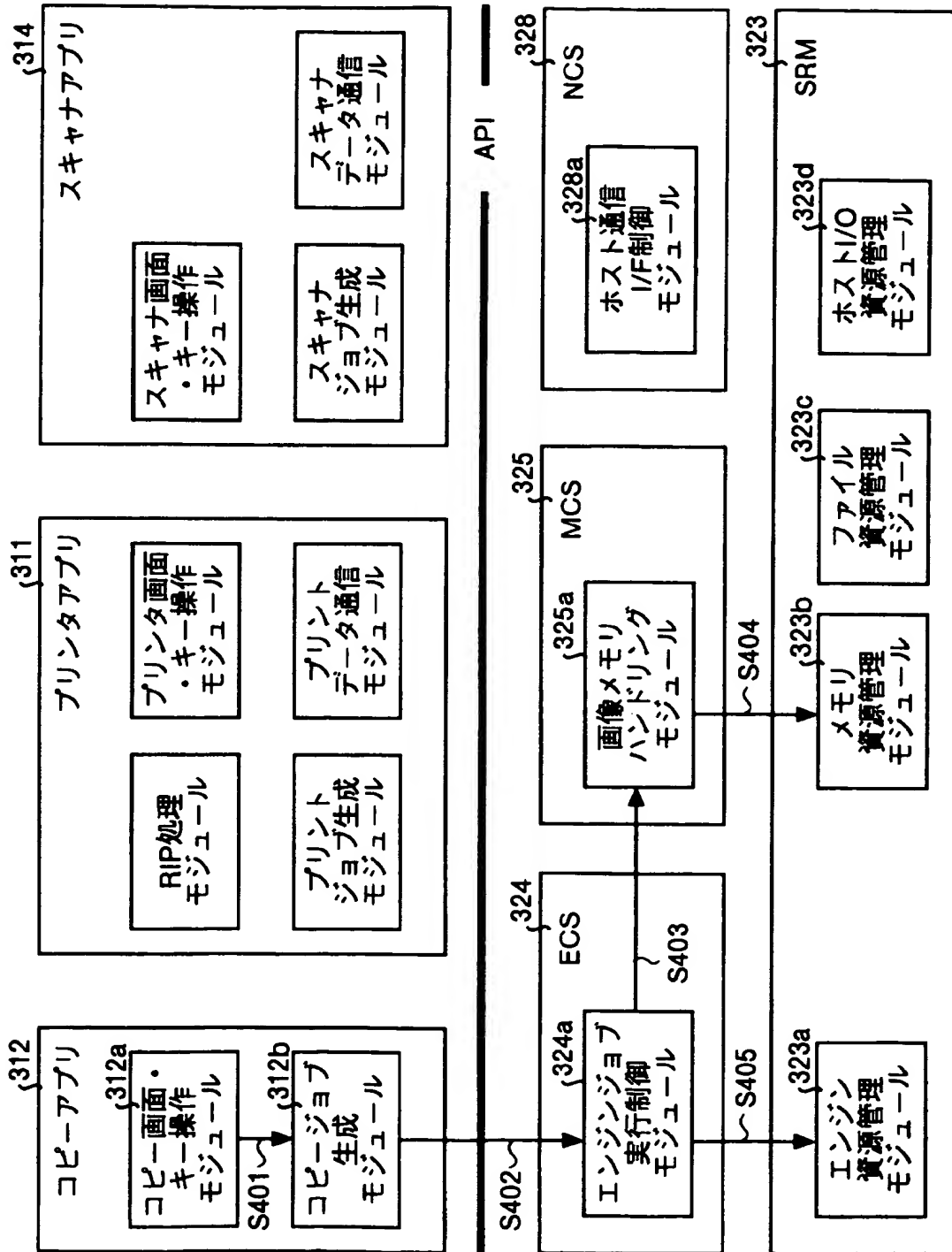
【図 2】



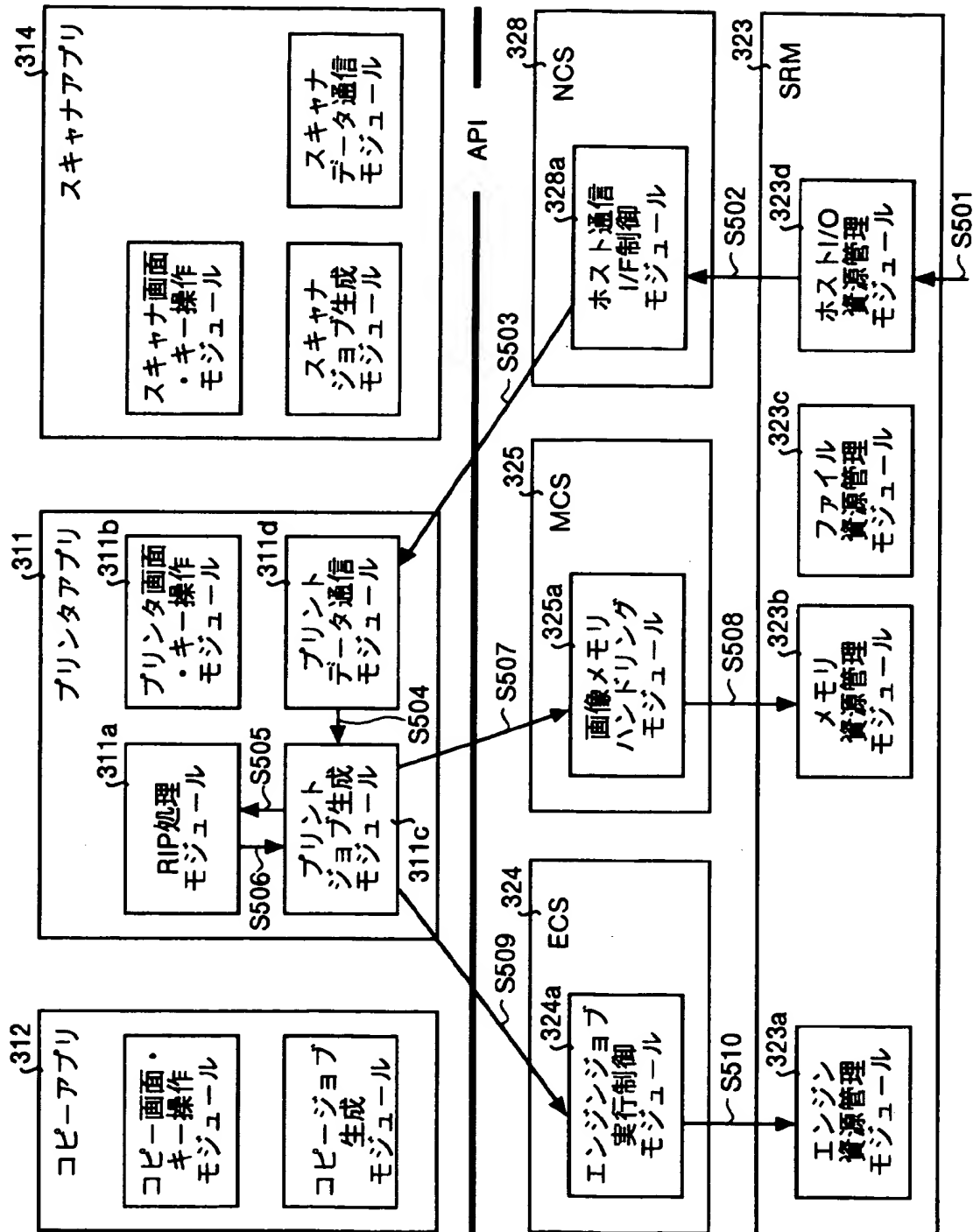
【図 3】



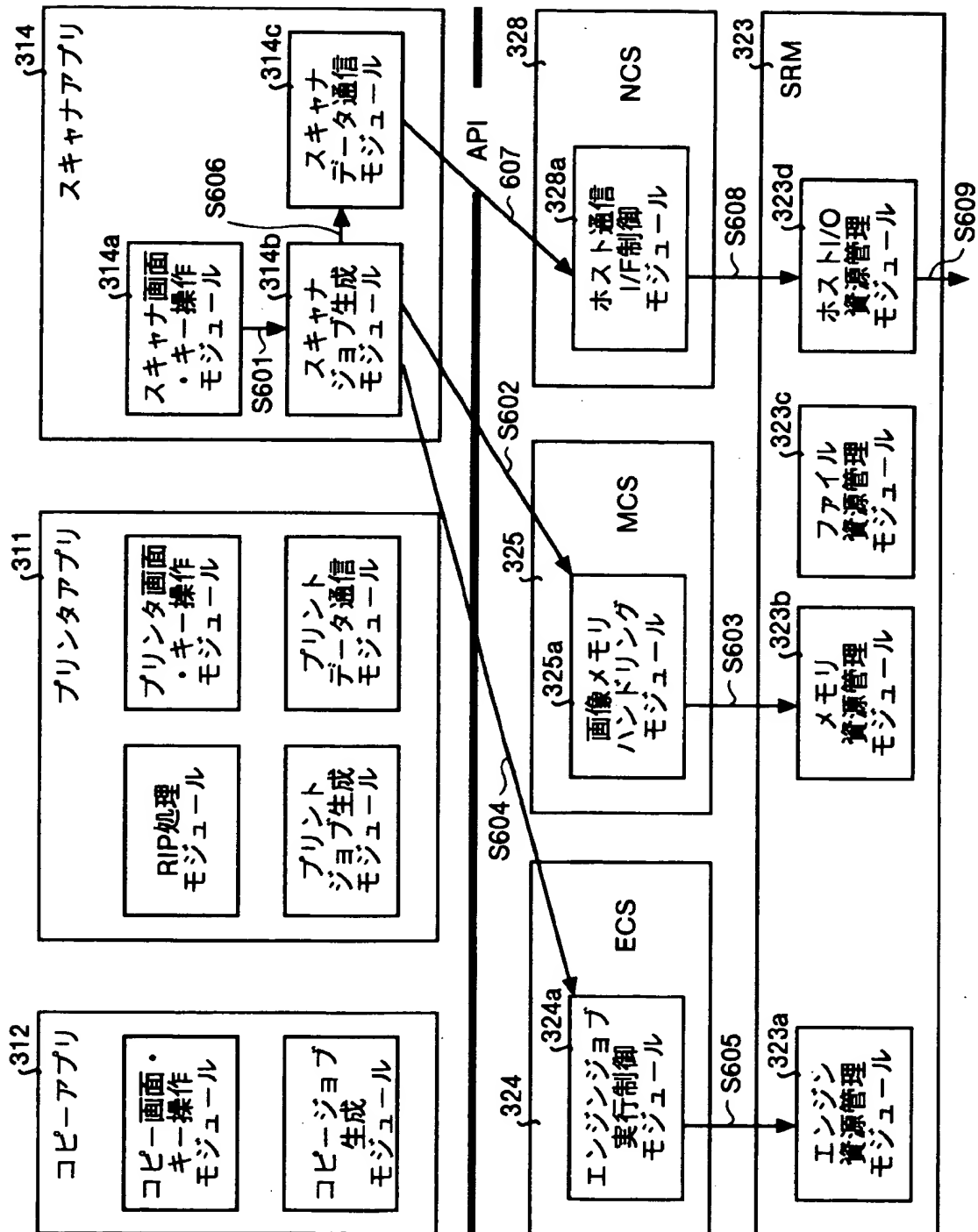
【図 4】



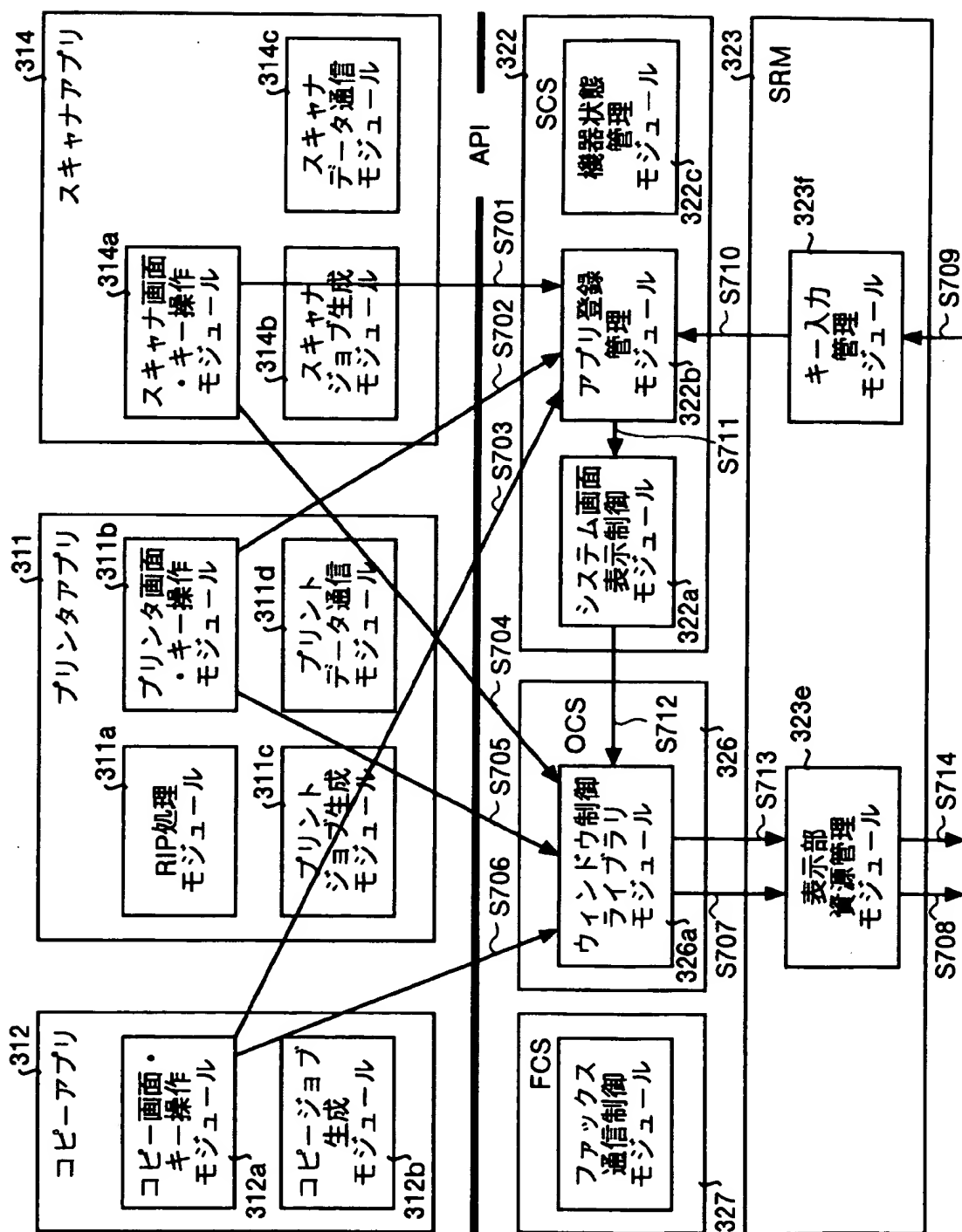
【図 5】



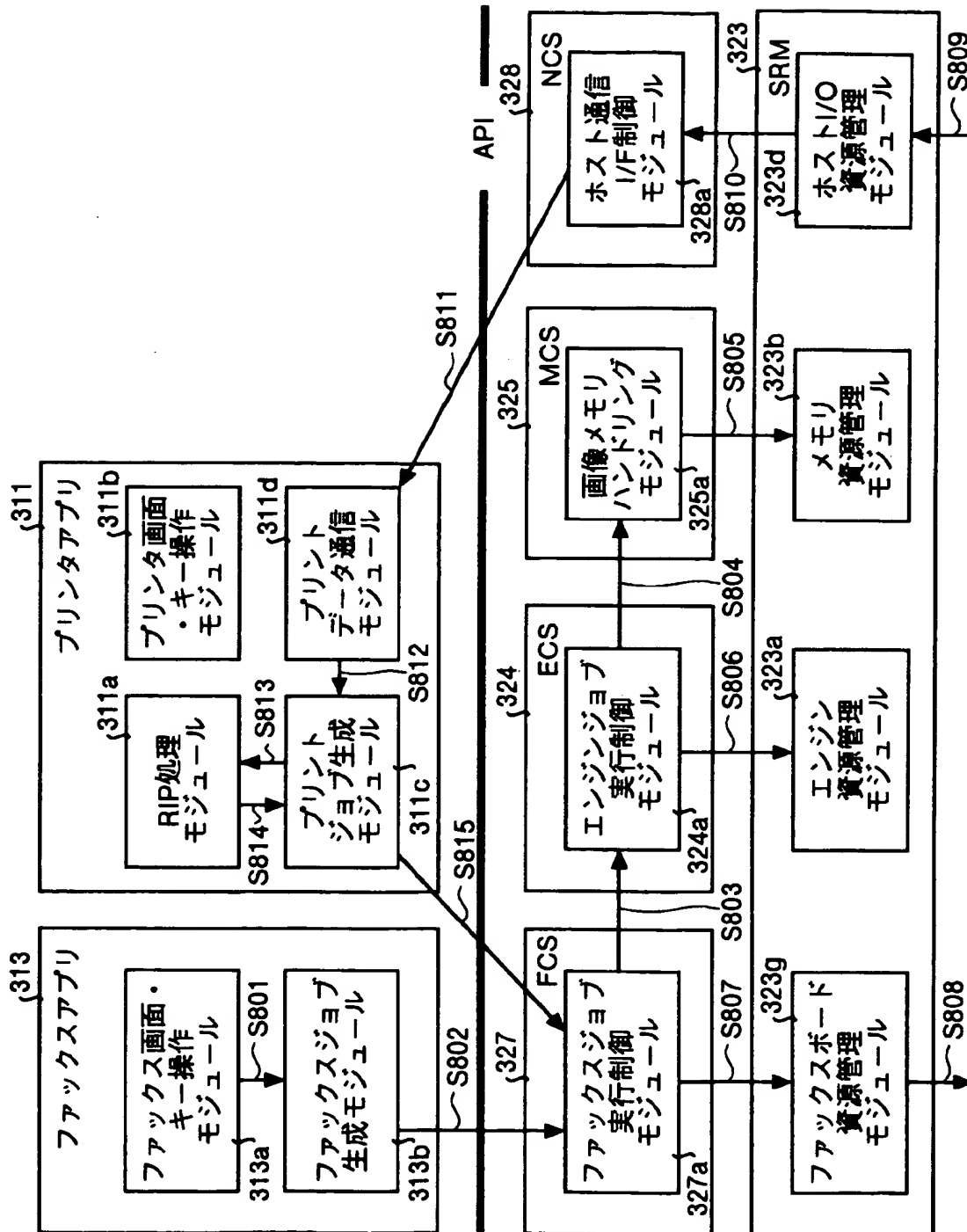
【図6】



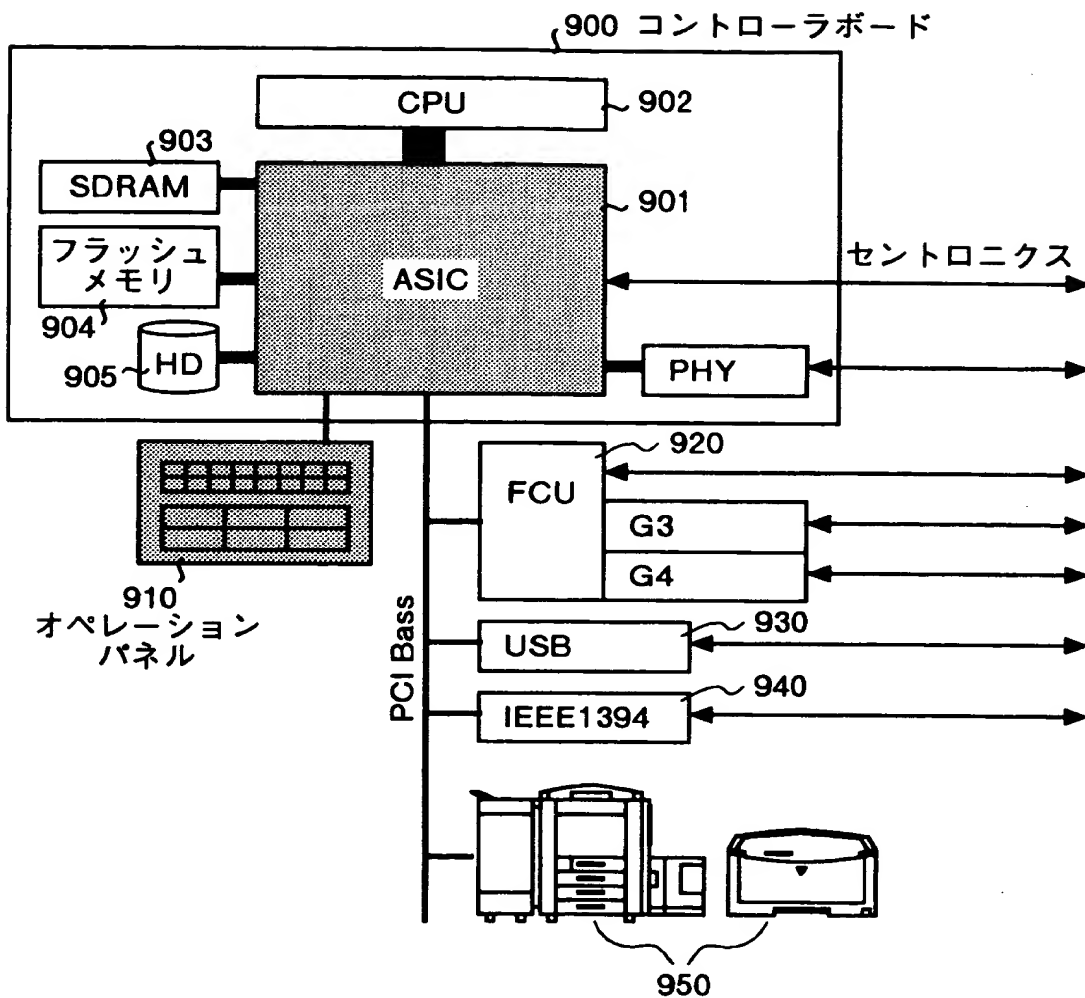
【図 7】



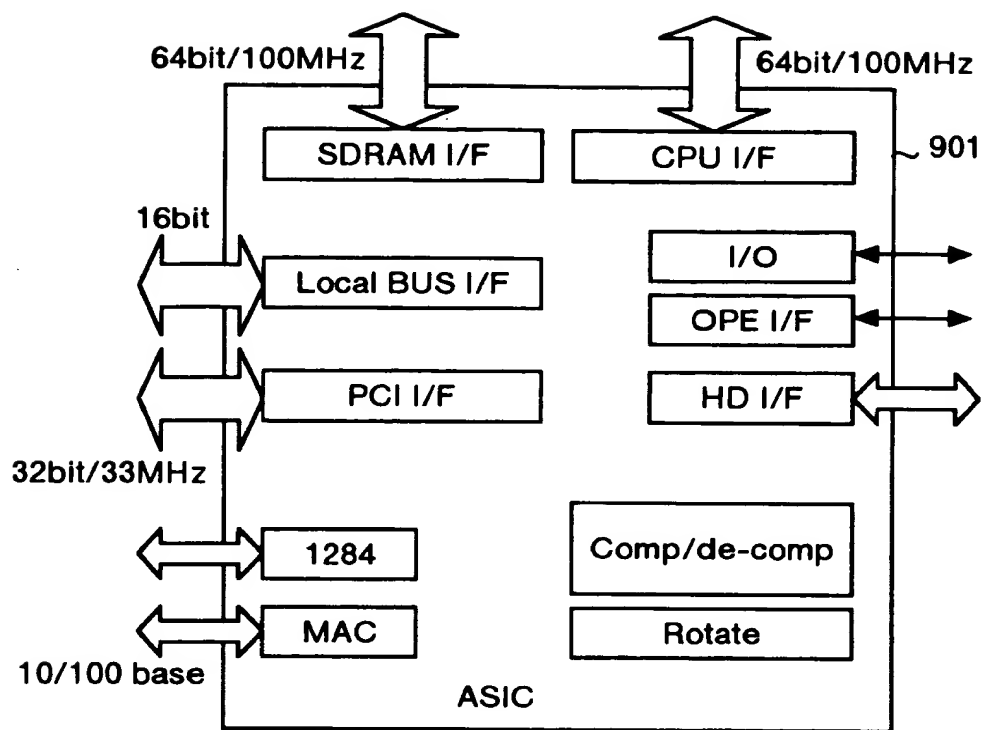
【図 8】



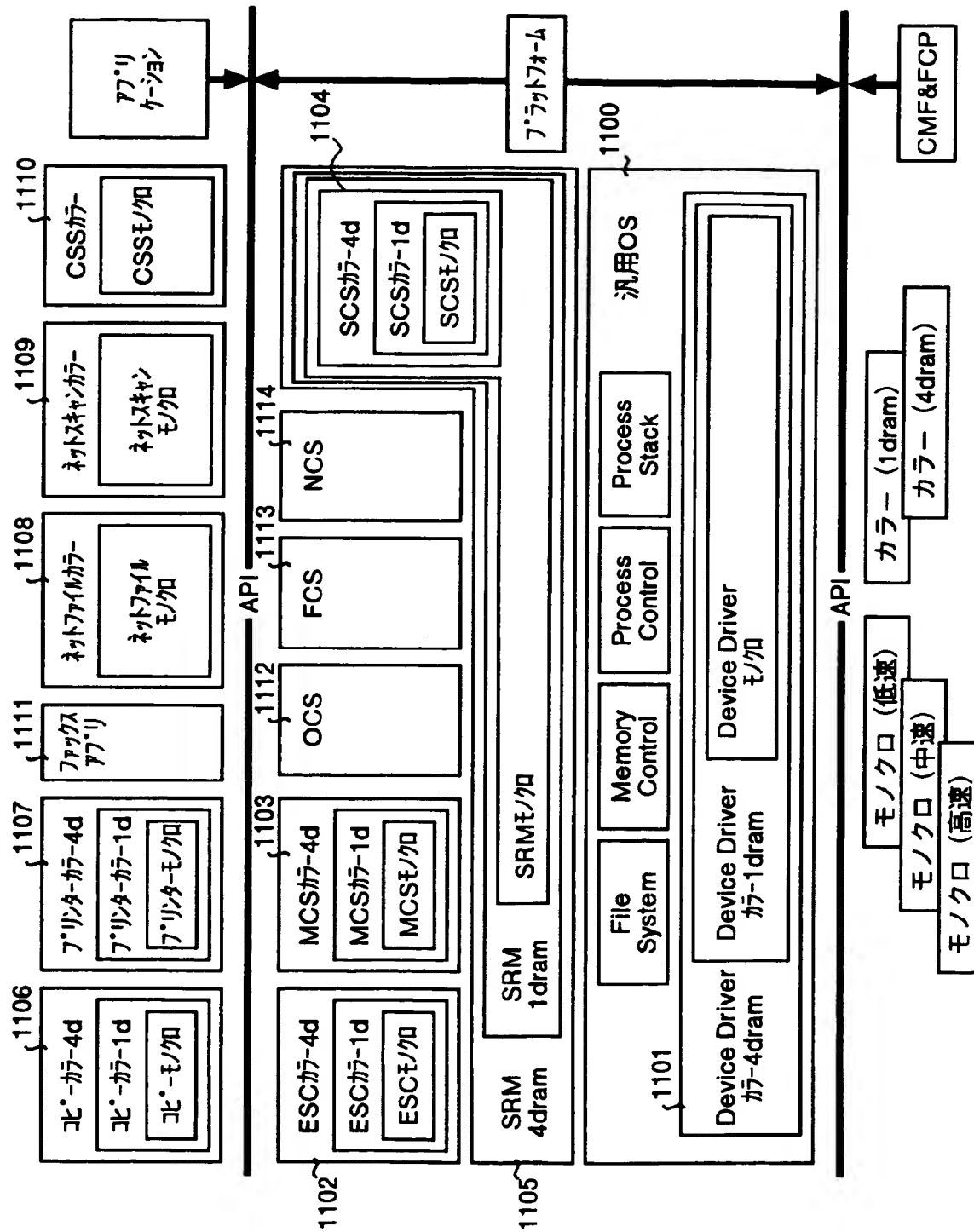
【図 9】



【図 1 0】



【図 11】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 プリンタ、コピーおよびファクシミリ装置などに対応する各ソフトウェア（アプリケーション）を効率良く開発するとともに装置全体としての生産性を高めること。

【解決手段】 各アプリケーションの共通部分を共通システムサービス 1 2 1 として括りだし、この共通システムサービス 1 2 1 および汎用 OS 1 1 1 によってプラットフォーム 1 2 2 を形成し、該プラットフォーム 1 2 2 上にプリンタアプリ 1 1 3、コピーアプリ 1 1 4 および各種アプリ 1 1 5 を搭載する。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000006747]

1. 変更年月日 1990年 8月24日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都大田区中馬込1丁目3番6号
氏 名 株式会社リコー